

東海道五十三次を往く

第10回

吉原宿

宿場の移転で実現 名勝「左富士」

吉原宿は、高潮や漂砂で二度も宿場が移転。もとは現JR吉原駅付近にあった(元吉原)が、寛永16(1639)年、高潮により富士市(依田原付近)に移転(中吉原)し、さらに延宝8(1680)年にも被害を受けて現在の吉原本町(吉原商店街)に。海沿いの街道が内陸に湾曲し、左手に富士が望めるようになった。東海道上富士が見られるのは、ことごと茅ヶ崎の「南湖の左富士」のみ。街道には左富士の名のつく神社や橋も。



旧東海道左富士のマツ

江戸から京へと進むとき、富士山の眺めは右だが、ここだけは松並木の間から左に見え、「左富士」と呼ばれた。当時の松並木は今はなく、この1本だけが残る。



中吉原宿跡

吉原宿は、高潮、漂砂などで二度移転。一度目の移転先である中吉原宿は、左富士神社南側(東ノ木戸)から津田あたり(西ノ木戸)まで約1km続いていたという。その後、延宝8(1680)年に高潮により現在の場所に。



左富士神社・依田橋村の一里塚

徳川家康によって築かれた江戸から34番目の一里塚も、ここでは水害によって吉原宿とともに移転。現在は、左富士神社の境内に一里塚跡の石碑が立つ。



富士市は“紙のまち” 製紙工場の煙突も名物



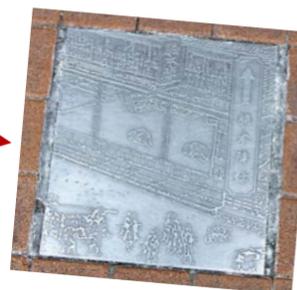
館内には、宿駅の出入り口や 本陣前に立てた「宿札」が



綱屋旅館

天和2(1682)年創業で、335年もの間、当時の場所で営業し続ける宿。全国に名を知られた大親分、清水次郎長や、幕末の偉人、山岡鉄舟の常宿でもあった。事前に連絡すれば、館内の見学も可能。
☎0545-52-0012
静岡県富士市吉原2-3-21

歩道のプレートで
跡地を確認



吉原本宿跡 周辺

二度目の移転先となった宿場の中心が、吉原商店街周辺。当時の面影はないが、江戸時代から続く旅館や菓子舗が残る。本陣跡や問屋場跡には、歩道にプレートがはめ込まれているので、足元に注意して歩きたい。

おみやげ



昔ながらの手作り甘納豆の店。素朴な風味と上品な甘さ、柔らかさが人気。小豆、青えんどう、金時、白いんげん、そら豆の5種類がある。100g 205円〜。

中山豆店 ☎0545-52-0659
静岡県富士市吉原2-1-17
☎9時〜17時 休水曜



甘納豆 詰め合わせ 1,404円



生フルーツゼリー 370円〜

※季節によって種類は異なる
フルーツアーティスト、杉山清氏のフルーツ専門店。生フルーツゼリーは、果物のおいしさをもっと知ってもらいたいと作り上げたもの。宝石のような美しさで、開店前から行列が。

杉山フルーツ ☎0545-52-1458
静岡県富士市吉原2-4-3
☎9時〜17時 休不定休

